

第5回先進医療会議における指摘事項

先進医療技術名：

食道癌根治的治療後の難治性良性狭窄に対する生分解性ステント留置術

日付 2013年4月30日

所属、氏名 国立がん研究センター東病院 矢野 友規

本ステントを留置した後に生じた再狭窄に対する取り扱いについて明らかにすること

【回答】

ご指摘ありがとうございます。

実施計画書「6.5. 後治療」の規定に従い、再狭窄（「dysphagia score \geq 2」かつ「汎用内視鏡が通過しない」状態）が生じた場合は後治療を考慮いたします。後治療としては、日常診療において標準的に行われているEBD、ブジー、RICを行います。BD stentの再挿入は行いません。

以上